

# 学級特性に応じた心の授業プログラムの検討 —小・中学校の教員に対する意識調査—

専攻 学校教育学専攻  
コース 臨床心理学コース  
学籍番号 M07067B  
氏名 稗田 祥代

## I. 問題と目的

近年、学校現場では子どもの暴力行為、いじめ、不登校、学級崩壊などの問題が指摘されている。この背景には、子どもの心や行動の変化や人間関係の面で、子ども達の持つ問題があると考えられる(森川, 2001)。このような問題に対して、学校現場では、特別な問題をもつ子どもだけでなく、すべての子どもに対して対人関係や自己理解などを意識した予防的、開発的な心理教育的援助が行われるようになってきている。構成的グループ・エンカウンター(SGE)や社会的スキル訓練(SST)、ストレスマネジメントなどはその例である。また、それぞれのプログラムが子ども達の学校適応などの向上に効果的であるということが明らかにされている。

しかし、先行研究では、このような心の授業プログラムの内容は、研究者の研究内容や教師の主観によって決められており、学級の状態や課題が十分に考慮されている研究は少ないと言える。

しかし、実際に子どもたちの発達促進や授業内容の定着のためには、学級の状態や課題を客観的にアセスメントし、その結果に基づいて心の授業プログラムの内容を構成する必要があると考えられる。

そこで、本研究では、小・中学校の教師に、様々な状態のクラスに対して、どのような心の授業プログラムを実施したいかを調査することで、学級の状態に適した心の授業プログラムの内容について、検討することを目的とする。

## II. 予備研究 1

これまでに実施されている心理学やグループワークの理論に基づいた心の授業を目的やねらいなどの内容によって分類した。その結果、「ストレスについての心理教育」「3つの話し方」「グループ協力活動」「友だちづきあいのコツ」「気持ち・感情への気づき」「ものの見方・考え方の変化」「リラックス」「自己理解・他者理解」の8つの授業内容に分類された。

## III. 予備研究 2

学級経営を行なう時に、教員が対応に困るようなクラスや心の授業を取り入れることが望ま

れるようなクラスの様子や特徴を収集するために、現職の教員10名に半構造化面接を実施した。面接の内容は、主に「学級経営が難しいと感じるときの学級の様子や特徴」や「心の授業を取り入れたいと思うときの学級の様子や特徴について」であった。その回答内容をKJ法によって分類した結果、「教師-生徒関係」「生徒間関係」「暴力的」「個別の配慮」「特別支援」「試験・受験前」「体育祭・文化祭前」の7つのクラスに分類された。

## IV. 本研究

**1. 目的** 学級の状態に応じた心の授業内容について検討する。

### 2. 方法

**(1) 調査対象**：小・中学校の教員 514名

**(2) 手続きと内容**：質問紙調査をおこなった。質問紙は、8種類の心の授業内容を提示し、それぞれの授業の実践経験の有無を5件法で回答を求めた。また、7タイプの学級像を提示し、それぞれの学級で8種類の心の授業をどのくらいやってみたいと思うかについて、6件法で回答を求めた。さらに、これまの心の授業の実践経験の中で、①うまくいった事例と学級の様子、②うまくいかなかった事例と学級の様子、③アンケートをやってみて、興味や関心をもったりやってみたいと思った授業内容について、自由記述で回答を求めた。

### 3. 結果

**(1) 分析対象**：307名(有効回答率:80.8%)

**(2) 各心の授業の実践経験**：それぞれの人数を校種ごとに集計した。その結果、小学校では、SGEにあたる「自己理解・他者理解」とSSTにあたる「友だちづきあいのコツ」が、認知度も高く実践経験が多かった。中学校では、「自己理解・他者理解」が認知度も高く実践経験が多かった。また、小学校と中学校で比較すると、中学校の方が心の授業の実践経験がある教員が少なかった。

**(3) 各学級に対する心の授業との関連**：それぞれの心の授業について、校種ごとにクラス(7)×経験値(3)の2要因分散分析を行った。その結果、全ての授業内容について、クラスと経験値の主効果が有意であった。さらに、多重比較をおこ

なった。

その結果、両校種において生徒間関係が希薄なクラスでは、「3つの話し方」「グループ協力活動」「友だちづきあいのコツ」「自己理解・他者理解」の4つが得点が高かった。また、暴力的なクラスでは、「3つの話し方」「気持ち・感情への気づき」の2つの得点が高かった。特別支援が必要な子がいるクラスでは、「3つの話し方」「自己理解・他者理解」の得点が高かった。さらに、試験・受験前のクラスでは、「ストレスについての心理教育」「リラックス」の得点が高かった。例として、小学校の得点の平均値と標準偏差をTable1に示す。

#### 4. 考察

それぞれの心の授業の認知度や実践経験は、SGEやSSTが高いことから、これらの授業は書籍などで紹介されていることなど、教師がそれらの授業内容を知る機会が多いことが要因の一つであると考えられる。

また、生徒間関係が希薄なクラスでは、対人関係の形成・維持に関する授業内容の得点が高かったことから、このようなクラスでは、まず対人関係を良好にしていくことが必要であると教師が感じていることが分かる。

また、暴力的なクラスでは、児童生徒が適切な自己主張や怒りの感情のコントロールを学ぶことが、よりよい学級経営のために重要であることが考えられる。

特別な支援が必要な子がいるクラスでは、自己理解・他者理解の活動を通して、学級内で対象児のポジティブな面に目を向けたり、対象児自身の自尊感情を向上させるような活動をする必要があることが考えられる。

さらに、試験・受験前などのストレスフルなクラスでは、ストレスマネジメントの授業が必要であることが示唆された。現在の自分のストレスを理解しストレス対処としてリラックス法を学ぶことが児童生徒の精神的健康にも役立つためであると考えられる。

#### V. 総合考察

本研究では、心の授業プログラムの実践経験と学級の状態に応じて、各プログラムをどのくらいやってみたいと思うかについて、調査を行った。その結果、SGEやSSTは認知度や実践経験も高くなっていることが明らかになった。また、経験値の高い教師ほど、その心の授業をやってみたいと思う得点も高かった。このことから、心の授業を学校現場で取り入れやすくするためには、教師がその授業の意義や目的をきちんと理解できるように、教師に分かりやすい授業案などを作成したり、教員研修などで実践的に学ぶ機会を提供することなどが必要であると考えられる。

また、様々な学級の状態に応じた心の授業が明らかになったが、本研究では教員の意識調査を行ったのみである。そのため、今後は実際の学級では各授業がどのようなクラスに効果があるのか、実践的に研究していく必要がある。

またそのために、学級全体の状態や課題をアセスメントするためのチェックリストも必要であると考えられる。今後は、学級の状態を把握し、それに応じた適切な心の授業プログラムが構成されていくことが課題である。

主任指導教員 富永 良喜  
指導教員 富永 良喜

Table 1 各クラスと心の授業内容との関連(小学校)

	グループ	自己・他者	ストレス	リラックス	話し方	友だちづきあ	気持ち・感情	見方・考え方
I. 教師と児童・生徒の間に信頼関係がなく、先生の指示に反発したり指導に従わないクラス	4.62 (1.08)	4.96 (1.02)	4.36 (1.20)	4.66 (1.00)	4.43 (1.05)	4.62 (1.01)	4.82 (0.96)	4.76 (0.94)
II. 児童・生徒の人間関係が薄く、自己主張が乏しいクラス	5.30 (0.80)	5.31 (0.80)	4.12 (0.95)	4.43 (0.98)	4.93 (0.94)	5.27 (0.76)	5.01 (0.82)	4.75 (0.96)
III. 集団をかき乱したり暴力的な児童・生徒がいて、ケンカやもめ事が多いクラス	4.77 (1.12)	5.20 (0.90)	5.12 (0.96)	5.12 (0.93)	4.96 (1.12)	5.12 (0.92)	5.24 (0.87)	4.88 (0.99)
IV. 不登校やいじめなど個別のケアが必要と考えられる児童・生徒がいるクラス	4.63 (1.09)	5.26 (0.86)	4.94 (1.02)	5.01 (0.92)	4.56 (1.04)	4.97 (0.95)	5.09 (0.89)	4.92 (0.93)
V. 落ち着きがなく集中できなかつたり、友人関係がうまくとれないなど、特別な支援を必要とする児童・生徒がいるクラス	4.76 (1.05)	5.29 (0.79)	4.61 (0.96)	4.90 (0.99)	4.80 (1.01)	5.05 (0.88)	5.04 (0.88)	4.82 (0.97)
VI. 受験や試験など、重要なイベントの前のクラス	3.87 (1.23)	4.01 (1.21)	5.22 (0.91)	5.45 (0.86)	3.70 (1.06)	3.81 (1.07)	4.21 (1.19)	4.09 (1.23)
VII. 体育祭や音楽発表会、文化祭など、大きなイベントの前のクラス	5.00 (1.12)	4.67 (1.11)	4.31 (1.13)	4.89 (1.06)	3.99 (1.06)	4.44 (1.16)	4.36 (1.15)	4.11 (1.10)